令和3年度研究テーマ 主体的に学び、考えを深める授業の創造

令和３年度　産山学園共通実践事項＋２
(1)単元のゴールの姿（単元デザイン）
(2)導入う（問いやつぶやきを引き出している・子供の言葉でめあてを立てている）
(3)展開ぶ・や（積極的なファシリテート・思考ツールの活用）
(4)終末ま（子供の言葉を生かしたまとめ・自らの学びや自己の変容がわかる振り返り）
＊効果的な場面で目的に応じたＩＣＴ機器の活用
＊学習過程が分かるように整理された板書の工夫

校内研通信
Ｎｏ．２

６月９日（水）
文責：冨永

第２回校内研から

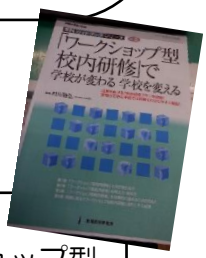
～食物アレルギーについて～

＜基礎知識・理解＞
◆食物アレルギーにより、呼吸器・皮膚・粘膜・消化器など様々な臓器に症状が生じる。
◆症状は軽症・中等症・重症の３段階あるが、症状の程度は個人差がある。
◆皮膚症状・消化器症状・呼吸器症状等が複数同時かつ急激に出現した状態を「アナフィラキシー」といい、それに加えて血圧や意識の低下・脱力を来す場合を「アナフィラキシーショック」という。生命の危機を伴う重篤な状態。早急で適切な対応が重要。

＜緊急時の校内体制＞
◆職員室中央ドア横にある役割分担カードをもとに組織で対応する。
◆緊急性の高い症状があるか5 分以内に判断し、必要に応じて救急車要請、AED、心肺蘇生を行う。

＜エピペン＞
◆エピペンはグーの手で持った後に上部の安全キャップを外し、大腿部外側にカチッと音がするまで強く押しつけ、5 秒間数える。エピペンは薬の内服後でも使用可能。
◆本校ではＪ先生がご自身のバッグの中にエピペンをお持ちです。

私のおすすめの教育書



～校長先生～

校長先生からは、２冊紹介していただきました。１冊目は、「最新教育動向２０２１」です。これは、温故知新でいうところの知新の部分にあたります。学校教育の「今」と「未来」を知っておくだけでも、今後の自身の実践へとつながる１冊です。２冊目は、「月刊、教職研修」という月に１回発行されているものです。これには、様々な学校の実践等が紹介されています。本校の実践にも活用できそうなものも載っております。

～副校長先生～

副校長先生からは、「ワークショップ型校内研修で学校が変わる　学校を変える」という本を紹介していただきました。ご自身が指導主事をされていた際にも活用されていたものだそうです。また、副校長先生からは、この本を出している「教育開発研究所さん」のシリーズはチェックしておいて間違いはないとのことでした。＊実は、校長先生の愛読書の「月刊、教職研修」も教育開発研究所さんの出版物でした！

＊裏面に実践例（社会 ver）を本年度の研究の視点に合わせた形で載せておりますので、先生方の参考になれば幸いです。